

【人間発達文化研究科(修士課程)アドミッション・ポリシー】

1. 人間発達文化研究科の教育目標と求める学生像

:人間発達文化研究科では、人間や地域や文化の抱える課題を自覚し、次世代を育てようとする意欲をもち、修了までに次の三つの力を身につけ、「人材育成のエキスパート」(経験を通して得た知識や技能を駆使できる熟達者)となることを希望する学生あるいは社会人を受け入れます。

- ・人間や地域や文化に対する問題意識を持ち、高度専門職業人にふさわしい知識と技能の修得(専門探究力)を望む学生あるいは社会人。
- ・課題を解決するために必要な組織や人材を活かしながら、修得した知識や技能を学校や地域で積極的に生かそうとする能力の修得(コーディネート力)を望む学生あるいは社会人。
- ・人間や社会の発達における文化の役割を理解し、次世代を育成しようとする能力の修得(人材育成力)を望む学生あるいは社会人。

:人間発達文化研究科には、教職教育専攻、地域文化創造専攻、学校臨床心理専攻の三つの専攻があります。各専攻が求める学生像は、次の通りです。

- ・教職教育専攻では、学校現場で必要とされる教育理念、教育内容、教育方法の高次の統合をめざし、学校改革・授業改革に結びつけるための実践的な研究を行い、高い専門性を修得し、<エキスパート教員>をめざす学生を求めます。
- ・地域文化創造専攻では、諸文化を構成する学問分野における研究力・実践力を修得するとともに、地域支援に必要なコーディネート力及び人材育成力を合わせ持つ<地域支援エキスパート>をめざす学生を求めます。
- ・学校臨床心理専攻では、臨床心理学及び学校福祉の臨床的な実践研究に基づき、様々な課題を抱える子ども・青年や家族・学校に対応する効果的な指導・援助・支援を行う<発達支援エキスパート>をめざす学生を求めます。

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

高度職業人として、「人材育成のエキスパート」となるためには、以下に掲げる関心、知識、技能を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ① 「人間発達」あるいは「地域や文化」に対する研究的な強い関心。
- ② 大学院での研究の基礎となる当該分野や領域での学力。
- ③ 大学院での研究に関する明確な目標と計画。

【地域政策科学研究科(修士課程)アドミッション・ポリシー】

1. 地域政策科学研究科(修士課程)の教育目標と求める学生像

本研究科は、学際的かつ政策科学的な教育課程を通じて、地域社会が提起する諸課題に対応できる理論と応用の研究能力を高め、地域社会の各分野で中核的役割を担う高度な専門性を備えた人材を養成することを目的としています。

本研究科では、広く学際的な観点から地域の多様な政策課題に対応した研究に取り組み、時代の進展と地域社会の要請に応える高度で専門的な研究能力を身につけようとする学生を求めています。

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

広く学際的な観点から地域の多様な政策課題に対応した研究に取り組み、時代の進展と地域社会の要請に応える高度で専門的な研究能力を身につけるために、以下に掲げる知識、技能、関心を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ・地域的諸問題および地域政策に対する強い研究上の関心
- ・大学院での研究の基礎となる当該分野・領域に関する学力
- ・大学院での研究に関する明確な目標と計画

【経済学研究科(修士課程)アドミッション・ポリシー】

1. 経済学研究科の教育目標と求める学生像

経済学研究科は、広い視野に立って精深な学識を修め、専攻分野における理論と応用との研究能力を高めつつ、高度の専門的知識及び能力を養うことを目的としており、修了までに、以下の4つの能力を身につけた高度専門職業人(実務家および研究者)を目指す人材の入学を求めています。

- ・高度の専門的知識: 経済学, 経営学, 会計学の専門分野の知識
- ・応用力・実践力: 獲得した専門的知識を, 経済社会の諸課題に応用し, 実践する力
- ・研究遂行能力: 自らの問題意識のもとに研究課題を設定し, 必要な情報や知見を収集・整理し, 課題の解決に向けて分析を展開する能力
- ・論理的思考力・分析力・表現力: 蓄積されてきた知見や諸議論を論理的思考のもとに整理・分析することができ, また, 自らの主張・意見を, 論理的に説明する能力

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

経済学, 経営学, 会計学の学問体系を基礎とした, 実践的応用力のある高度専門職業人を目指す人材として, 以下に掲げる知識・技能・関心を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ・経済, 経営, 会計分野の理論的, 実践的諸課題に関する探究心
- ・大学院での研究の基礎となる当該分野や領域での学力
- ・大学院での研究に関する明確な問題意識と計画

上記の観点から, 一般入試(・専攻所属生対象特別入試)を実施し, 加えて, 多様な問題意識の志願者に対応するために次の3つの特別入試を実施しています。

- ・「社会人特別入試」は, 社会人としての経験を活かして明確な問題意識をもって研究に励もうとする, 意欲的な志願者を対象とする特別入試です。
- ・「商業科・公民科教員対象特別入試」は, 高等学校教育での経験や問題意識を基礎にして, 最新の学術知識を修得し教育の現場に還元していこうとする志願者やキャリアアップを図りたいと考える志願者を対象にした特別入試です。
- ・「修士再履修特別入試」は, 明確な目的意識のもとに, これまでの研究成果の上にさらに経済・経営分野の研究を積み上げていこうとする意欲的な志願者を対象にした特別入試です。

【共生システム理工学研究科(博士課程前期)アドミッション・ポリシー】

1. 共生システム理工学研究科(博士前期課程)の教育目標と求める学生像

世界的な人口問題は、全地球での食糧需給問題、エネルギー消費の問題、地球環境への負荷の問題等人類生存の危機ともいわれる大きな課題となっています。また、国内では高齢社会が到来し、核家族化による高齢者世帯の増加など社会制度を揺るがす問題に発展し、介護、医療等でのより優れた量的・質的支援が求められています。さらに、途上国での経済発展による地球環境への負荷は、これまで以上に大きくなる可能性を有しており、自然との共生を図りながら経済発展を可能にする新たな省エネルギー・省資源の技術開発が不可欠な状況になっています。

こうした課題の解決のためには、従来の科学技術の枠組みにとらわれず、地球規模の視野と多元的な視点を持ち、「共生」のシステム科学という新たな枠組みの中で物事を考え、対応できる力を有する人材が必要です。

共生システム理工学研究科では、人－産業－環境における共生のための新たなシステム科学の構築を志し、持続的な人類の生存環境の創造に積極的に挑戦しようとする強い意欲を持つ人を対象として、柔軟な思考力、分析・観察力などを総合的に評価し、本研究科に相応しい人材を選抜します。

本研究科では、1専攻の中に6つの分野があり、それぞれ以下のような特徴を持つ教育・研究を行っています。そのいずれかに興味があり、自分に適合していると考えられる学生を求めます。

[人間－機械システム]

感覚、運動、記憶、学習、意識、睡眠、循環、音環境などに関する生体機能理解の研究や、それらの知見を人間支援に応用した機械的・電氣的システムの研究、またはそれらを可能にする材料や評価方法の研究を通して専門的知識を修得し、それらを活用する実践力を有する専門職業人を育成します。

[産業システム]

21世紀型の新しい産業の創出や振興のために、機能性材料、高性能材料の開発や製造技術・エネルギー技術に加えて、経営工学技術、技術経営(MOT)、インキュベーション、産業政策と環境計画に関する教育・研究を行い、効率的な生産管理システムやロジスティクスシステムの開発および環境保全型産業システムの構築に関する幅広い知識を備え、かつ適切に情報システム技術を活用・応用できる広い視野を有する専門職業人を育成します。

[環境システム]

フィールド調査、衛星観測からモデリングまでの様々な環境解析手法を修得し、水・物質循環に沿った専門的な環境解析を行って環境変化の実態を把握できる、あるいは、大気圏・生物圏・水圏・地圏・人間圏における環境保全や汚染浄化・再生に関する技法を修得し実践できる、または、自然資源の量や質、都市・農村での人間活動による影響を様々な環境情報を活用して評価し、持続可能な人間環境システムの管理・計画を行うことができる専門職業人を育成します。

[数理・情報科学]

様々な問題に対して合理的な数理モデルを構築するための理論と、そのモデルの解析を通してシステムとして必要な状態をつくるための手法に関する教育・研究を行うと同時に、コンピュータ・ネットワークのハードウェアおよびソフトウェア、社会問題・自然現象など具体的課題への適用を通して、高度なシステム論的知識と問題解決能力を備えた専門職業人を育成します。

[物質科学]

日本は、多くの資源やエネルギー源を海外に依存して、加工製品を輸出して成り立っている国であり、常に海外競争に耐えられる新材料と技術を、環境への対応を念頭におきながら創製して世界に送り出すように努める必要があります。そこで、無機物、有機物、生物を主な素材とした物作りの科学、新技術・エネルギーの創製等に関する知識や技能に関する教育・研究を行い、応用研究の体験を通して実践力を涵養することにより、産業競争力の向上や持続循環型社会の構築に寄与できる専門職業人を育成します。

[再生可能エネルギー]

持続循環型産業および社会を構築するために必要な再生可能エネルギー、省資源・省エネルギー、エネルギー資源の需要・供給解析等に関する教育・研究を行い、エネルギー問題に対する広い知識を持ち、革新的再生可能エネルギーならびに関連材料の開発と持続的発展を支えることができる専門職業人を育成します。

2. 入試の際に求める知識・技能・意欲

共生のシステム科学という新たな学問体系の枠組みの中で、地域に貢献できる実践的な力を有する専門職業人となるために、以下に掲げる知識、技能、意欲を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ・理工系大学の学士課程までに学ぶ基礎的な知識。
- ・柔軟な思考力, 理解力, 応用力, および表現力。
- ・21世紀の課題解決に取り組む意欲。

【共生システム理工学研究科(博士課程後期)アドミッション・ポリシー】

1. 共生システム理工学研究科(博士後期課程)の教育目標と求める学生像

本研究科博士後期課程では、持続循環型社会の実現や、少子・高齢化問題への対策など、21世紀の課題解決に貢献できる人材の養成を目的としています。このような複雑で複合的な要因を有する課題の解決のためには、これまでの理工系大学院の中心であった自然科学に関する高度な専門知識及び研究能力だけでなく、人間科学・社会科学的な素養も身に付けた国際的に活躍できる高度専門職業人・研究者が求められています。

そこで、人－産業－環境の共生を理念とし、共生機械システム、産業共生システム、環境共生システムの3領域で研究プロジェクトを実施し、実践的な活動の機会を通して、自立して研究・開発を行う能力のある人材を養成します。これにより、人を中心とし、産業や環境との共生を考慮したシステム科学の創造、発展、継承を行い、新たな産業の創出と地域の活性化、国際貢献に寄与することを目指しています。

3領域の特色と目標は以下の通りです。

[共生機械システム]

生活の質の向上と安全・安心を求める要求に対して、深い人理解に基づき、人の特性を積極的に取り入れて機械システムを構築することが求められています。このようなシステム構築の方法を体系化することは、人と機械の次世代の共生関係を実現するために極めて重要です。本領域では、人理解科学、メカトロニクス、情報技術等に関する高度な研究・教育を行い、さまざまな産業分野において人と共生する機械システムの創出を支える、卓越した技術開発力と高度な研究能力を有する自立した高度専門職業人・研究者を養成します。

[産業共生システム]

文理融合の視点に立ち、21世紀型の新しい産業の創出と地域振興のために、資源材料・エネルギー・産業用微生物等に関わる工学技術や、数理情報基礎、情報・コンピュータ科学に加え、産業政策や環境経済、技術経営(MOT)、経営情報システム、生産管理とロジスティクスシステム等に関する教育・研究を行い、地域特性を活かした持続循環型産業システムの創生に関する幅広い知識を備え、高度な工学的研究・開発能力を有する自立した高度専門職業人・研究者を養成します。

[環境共生システム]

環境システム分野の幅広い知識に加え、水や物質循環に沿った環境変化の実態についてフィールド調査、衛星観測からモデリングまでの様々な手法を活用して解析し予測することができる能力や、大気圏・水圏・地圏・生物圏・人間圏における環境保全や汚染浄化・環境再生等に関する専門技術を活かせる能力、さらに人間活動による影響について環境情報を活用して評価し持続可能な人間環境システムの管理・計画ができる能力など、高度な専門的能力を有する自立した高度専門職業人・研究者を養成します。

2. 入試の際に求める知識・技能・意欲

持続循環型社会の実現、少子・高齢化問題への対策などの21世紀の課題解決に貢献できる人材となるためには、以下に掲げる知識、技能、意欲を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ・理工系大学院博士前期課程(修士課程)までに学ぶ基礎的な知識。
- ・柔軟な思考力、理解力、応用力、および表現力。
- ・21世紀の課題解決に取り組む意欲。